



Published by Alko-Planning, Ura Shobou, Okayama, Japan. Printed by Kohoku Printing Co., Ltd., Okayama, Japan.  
ISBN4-900907-15-4 C8793 ¥1000E 発売 温羅書房 本体1,000円+税(送料別)

IN THE FOREST OF MEMORY 記憶の森

贈る絵本 12

IN THE FOREST OF MEMORY

記憶の森

Japanese Text & Illustration by KAZUMASA UCHIO  
English Text by TADAAKI MIYAKE

うちお かずまさ：え / ぶ  
みやけ ただあき：えいぶ

贈る絵本第12号

## プロローグ

大気がまだ蒼かった頃から、  
植物たちは、  
その歴史を綴ってきた。

地球の記憶を身体中で受けとめ、  
その厳しさと暖かさを  
しっかりと年輪として刻み込み、  
植物たちは、  
生き続けてきた。

大地に芽吹き、茎は幹となり、  
枝を伸ばし、葉を広げ、  
光を力に変えてゆく。  
そうして、木は樹となる。

そして、  
命の限り空へ挑み続ける姿を  
人は敬意を込めて

大樹と呼ぶ。

その心音に包まれていると、  
閉ざされていた記憶が蘇ってくるのがわかる。

私は身体を大樹の懐に預けたまま、  
記憶の森へと旅に出た。

これは、  
私が出逢った不思議な生き物たちの  
記録である。

内尾和正

## Prologue

*Since the beginning of air,  
Plants have kept recording their history.*

*They have survived all this while,  
Receiving the memory of the earth,  
Its warmth as well as its bitterness,  
Generation after generation, age after age.*

*Coming out of the earth,  
Stalks grow into trunks,  
Branching and spreading foliage,  
Changing sunshine into power,  
A seedling into a tree.*

*Looking up at its top,  
How it is challenging the sky,  
With awe, people call it a big tree.*

*Surrounded by its throbbing,  
We feel its memory coming back.*

*I set out into the forest of memory,  
Held myself in the bosom of the tree.*

*This is the record of strange creatures,  
I met while I was travelling.*

# IN THE FOREST OF MEMORY

## 記憶の森

内尾和正



**English Text by TADAAKI MIYAKE**



つぼみび  
春の蕾陽

移りゆく  
不安定な季節の中での  
出逢いだった。  
生あるものは、  
そのすべてに定められた  
永遠へのかたちがある。

共に力強く生きること  
命を大事に紡いでいる。

そんな姿が愛しい。

*I met them in the ever changing season.  
Every living thing has its own shape,  
Destined forever.*

*Living with full strength together,  
They seemed to know how valuable the life is.*

*Dear to me was how they were living.*

きょうがく  
響岳

彼がじっとしているのには、  
訳がある。  
森にかかる霧を突き抜けてくる音の  
いっさいを聞きとるためだ。  
その雑多な音の束から  
唯一求める友の声を  
逃がさぬように。

そして、その声が聞こえた時  
彼は迷わず  
飛び立つだろう。

*There was a reason why he stayed  
motionless.  
It was to hear all the sounds,  
Coming through the mist of the forest,  
To catch the sound from his friend,  
Above all kinds of sound and noise.*

*As soon as he catches the sound,  
It will start without hesitating.*





Sky Adoring Wall

くうどう  
空憧の壁

時折、  
猛烈に吹き付ける風の中で  
彼らは、生きていた。  
空への憧れは、  
いつしか強い覚悟となって  
苛酷な環境をも伴とした。

雪をもよせつけない崖と突風に  
彼らは守られ、  
何者にも邪魔されず  
空への進化を待っている。

青い空が、  
彼らの瞳を蒼く染める。

*They were living,  
In the winds, from time to time,  
Such violent storms.  
Their adoring mind toward the sky,  
Made their violent environments  
Their friends at last.*

*Guarded by the cliffs and storms,  
Which even reject the snow,  
They are expecting themselves  
Undisturbed into the sky.*

*The blue sky  
Has dyed their eyes likewise.*

## 胎洞

いつ降った雨なのだろう。

今、時を経て大地に浄化され、  
すべての過去が  
一筋の流れとなって降りそそぐ。  
その水音は、  
生き物たちの心音に、  
共鳴している。

厳しい日射しを避けた私の目に、  
彼らの姿が写しだされた。

それはまるで  
胎の中で  
光を待つもののように、  
安堵感で満ちていた。

*When did it rain last?  
Purified by the earth in ages.  
All the pasts coming down in a torrent,  
The sound is harmonized with the cardiac  
sounds  
Of all living things.*

*They appeared in my eyes,  
Sheltered from the radiant sunlight.*

*It was filled with safety and easiness  
Like an unborn child in the womb.*





Green Wind Wood

りよくふうりん  
緑風林

林を駆ける彼らの足音は聴こえない。

風が吹くように  
空気だけを動かし、  
彼らは駆けてゆく。

私は幾度も  
通り過ぎてゆく風を感じた。

*We cannot hear their steps,  
Running about in the woods.*

*Like the wind,  
They run about,  
Moving only the air.*

*Often did I feel them,  
Running past like the wind.*

かい  
殻

世の中には、  
どこまでも相入れないものがある。  
彼らは悪戯にこんな姿に  
生まれてしまったために  
その先の生き方が決まっていた。

決して彼らは  
無駄な殺りくをする訳ではない。  
ただその姿ゆえに  
誰からも理解されはしない。

ただ生き物の運命である  
食物連鎖の中で  
精一杯生きているだけなのに...

*Not every thing is accepted by the world.  
It was their destiny to be born in this  
shape,  
Therefore to live in the way they live.*

*They never kill in vain.  
But never are they accepted,  
On account of their shape.*

*How hard do they live?  
According to the rules of nature.*







Sky Ocean Waves

## 天海の波

彼らが飛び始めたのは何故。

空を選んだ彼らの選択は  
正しかったのだろうか。  
いつのまにか陸を離れ飛び続けることが  
種の定めとなった。

空の海をゆったりと泳ぐ姿に  
迷いは感じられない

時の流れとともに  
その形と色を変える雲海が  
彼らの住家である。

*Why did they start to fly?*

*Did they make a right choice,  
In choosing the sky for themselves?  
When did it become their destiny,  
To keep flying apart from the land?*

*Through ages and generations,  
The sea of ever changing clouds,  
Has become their dwellings.*

ようせい

## 幼棲の海

そこは故郷に似たところだった。

なんの違和感もなく  
その景色を懐かしんでいる。  
どこを見ても  
かつて遊んだことのある場所のようだ。  
岩も砂浜も、そして彼らも、  
私をわくわくさせる。

そこには、  
自然と無邪気に遊んでいた頃の  
私があった。

*It was like my native land.  
The scene so naturally  
Reminded me of my childhood.  
Rocks, beaches, and they themselves  
Made me so excited.*

*Innocent was I,  
Playing with nature,  
When I was a small child.*





しゅうこ うたげ  
透湖の憂

一瞬、宙に浮いて見えた。

住むことを許されたものだけが  
優雅に泳ぐ。  
美しく透明な水に  
多くの生き物はよりつけない。

時として  
濁った水に命があふれていることの  
真の理由がここにある。

遠浅の湖は  
いつまでも  
泳ぐ彼の姿を見せていた。

*For a moment, it seemed to be  
Floating in the air.*

*Only the permitted were  
Gracefully swimming  
In the transparent water,  
Which most creatures  
Cannot even come near.*

*That is why  
Impure water is full of life.*

*I could see them swimming,  
How far from shore  
They might swim away.*

## 砂のゆりかご

砂嵐が舞い  
陽は容赦なく彼らに  
照りつける。

地にしっかりと踏んばって  
ゆっくりとゆったりと  
揺れている。

私は、  
それぞれが思い思いに  
揺れ動く様子を  
飽きることなく眺めていた。

ふと気づくと  
私の身体も揺れていた。

*Sand storms and the heat of the sun,  
Mercilessly fall on them.*

*Rooted steadily in the earth,  
Shaking slowly and silently,  
Never was I tired of watching them,  
Shaking and moving as they were.*

*I suddenly found myself  
Shaking and moving.*





White Earth

## 白の大地

青の空。  
降りそぐ陽の光。  
いっこうに白は青にとけようとはしない。  
氷の大地はどの色をも  
跳ね返す。

「一緒にあたたまろう。」  
そんな声が聞こえたような気がした。

私の前に寄りそう親子がいた。  
一人で耐えるにはきびしすぎる風も  
侶がいれば平気でいられるのだろう。

彼らの瞳を染める柔和な色が、  
それを物語っている。

*Blue skies.  
Shedding sun lights.*

*White will not melt into blue.  
Ice covered earth  
Rejects all colours.*

*I felt as if I heard a voice,  
“Let’s warm ourselves.”*

*I saw their family before me.  
They could bear a bitter wind  
Because they were together.*

*Their mild eyes  
Showed it was true.*

## 雪鏡

痛いと感じるほどの  
寒さを求めて旅にでた。  
雪は全ての色を消し、  
全ての色を受け入れる。

極限の寒さは、  
人の五感をも凍りつかせてしまうのか。

景色の中に溶け込んでいた彼に  
気づいたのは、  
大地をすれすれに射し込む朝の光で  
彼がわずかに  
動いた瞬間だった。  
そして、

それが合図であるかのように、  
私の中の混色達が、  
本来の色を取り戻し始める。

*I set out for a journey,  
Expecting even a painful cold.  
Snow puts out all colours  
And also it accepts them all.*

*The extreme of cold  
Can freeze all our senses, I wonder.*

*It was not until he moved a bit  
That I noticed him,  
Who had been melted in the scene,  
In the morning sunlight,  
Horizontally shedding in.*

*As if it was the signal,  
All the mixed colours in myself,  
Started to resume their own colours.*





The Peak of the Everlasting Tree

## 永樹の峰

永久冠雪地帯を、  
旅したいと思った。

静かに流れる時の積み重ねを  
すっばり包み込んでいる  
白い大地。  
凍りついた大気の中、  
自らの姿を  
動から静に変え  
大地に根付くため  
彼らはそこにいた。

すりガラスのような空を  
透かしてしまうほどの  
春の陽射しが  
待ち遠しい。

*I wanted to travel  
Through an ever snow covered region.*

*The white earth,  
Wrapping all the lays of time,  
Amidst the frozen air,  
They were found there,  
To root in the earth,  
Changing themselves from moving to  
staying.*

*How anxious I was  
To see the spring sunlight,  
As if to break through the sky  
Like a huge pane of ground glass.*



もえぎ も  
**萌木守り**

老夫婦のように、  
寄りそって立つ二本の大樹。

その二人を気遣うように、  
彼はゆったりと大地を  
踏みしめる

古老たちが芽を吹き、  
その葉を拡げ  
懸命に樹であろうとする時、  
彼は静かに、

姿を現す。

*Two big trees stood side by side  
Like an old couple.*

*Slowly he steps on the earth,  
Carefully as if not to disturb them.*

*When old trees begin to bud,  
To spread their foliage,  
To claim themselves as trees,  
Silently does he*

*Disappear!*



あとがき

記憶の森への旅はどうでしたか。これは全て私の我がままな想像の世界ですが、そこに生まれた生き物たちは、決しておもしろ半分に創り出したものではありません。

私自身が人間として生きている日常で苦しみや喜びや悲しみの中に彼らの姿を見出すのです。だから、これらは、私の心象風景であり、もう一人の私なのです。きっとあなたにもあなた自身の風景があるはずです。それは決して遠いところではなく岩の下だったり、風になびく青葉の裏だったりするかもしれません。

ほんの少し心にゆとりを持って、あなたの森を捜してみたいはいかがでしょうか。

では、私もまた次の旅支度を始めることにします。

内尾 和正

Dear Reader:

I believe all of you enjoyed such fantastic illustrations of all those strange creatures. They were all produced by imagination of a poet. They were also illustrated by computer. Computer is really great, isn't it? However, if a user has no imagination, it is nothing but an empty box. Even in the age of science, imagination is far above everything, as long as it gives us dreams.

Sincerely yours,

Tadaaki Miyake  
(Okayama Prefectural University)

このえほんは よんだあと えほんのすくない フィリピンの しょうがくせいの おともだちへ プレゼントして あげてください。

### お礼とおねがい

この度は、贈る絵本を手にしていただきありがとうございます。  
この絵本は、心のふれ合う機会が少なくなった日本の子ども達と、絵本を手にする機会の少ない開発途上国の子ども達のために、制作しています。日本の子ども達が読んだ後、下記の住所までお送りいただければ当会が責任を持ってフィリピン等の子ども達へお届けします。  
この絵本をお子さんの意志で、フィリピンの子ども達に贈っていただくよう保護者の皆様にご指導いただければ幸いです。大切なものだからこそ、心をこめて人にプレゼントすることの尊さを知ってもらいたいです。  
子ども達の明るい未来のために....

「リコーダーをおくる会」代表 黒住宗道

「子ども達に絵本を贈る運動」参加問い合わせと贈る絵本の返送先  
〒700-0821 岡山市中山下1-11-40 FITZ 8F 「リコーダーをおくる会」 Tel.086-225-7772

THE CHILDREN'S CULTURAL ASSISTANCE



This picture book is presented for you, by Japanese children, through  
*THE CHILDREN'S CULTURAL ASSISTANCE.*

和英対訳贈る絵本シリーズ(既刊)

第1号 「カニのマーヤ」

第2号 「元気な鬼」

第3号 「ナナちゃんのかぞく」

第4号 「ウバユリ」

第5号 「夕日のモルマ」

第6号 「世界の童謡」

第7号 「天人女房」

第8号 「カメとスイギュウ」

第9号 「キュウちゃんのレストラン」

第10号 「ありがとう」

第11号 「世界の童謡2」

贈る絵本 通巻12号「記憶の森」

---

“In the Forest of Memory” Illustration & Japanese Text © 1998 Uchio Kazumasa / English Text © 1998

1998年12月25日発行 / 編集・発行人 鎌田栄治 / 発売人 河口純一郎

編集・発行 有限会社アルコプランニング 〒700-0821 岡山市中山下1-11-40 中山下黒住ビル 8F Tel.086(225)5015

発売 有限会社温羅書房 / 印刷 コーホク印刷株式会社

この作品を許可なくして転載・上演・放送しないこと / 万一不良がありましたら、お取り替えいたします。

---